クイーンズゲイト スパイナルカオス～多次元を旅する戦士の戦い～

ジンオウガ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
クイーンズゲイト　スパイナルカオス～多次元を旅する戦士の戦い～

【Ｎコード】
Ｎ０９９２Ｚ

【作者名】
ジンオウガ

【あらすじ】
次元には色んな世界が存在する。そんな多次元を旅していた主人公『如月拓海』は次の世界に行こうとした時、突然の地震に巻き込まれ、目が覚めるとそこは砂漠地帯だった……

主人公設定

名前：如月拓海

年齢：１８歳

好きな事：旅、料理、サバイバル、写真撮影、トレジャーハント、子供の笑顔、動物、自主トレなど。

嫌いな事：子供を泣かせる奴、女の子の涙、人を見下す奴など。

容姿：ガンダムＳＥＥＤＤＥＳＴＩＮＹのシン・アスカ

設定

本作の主人公で、多次元を旅する男。神が誤って殺してしまい拓海を別世界に転生させようとしたが拓海はそれを拒み逆に色んな世界を旅したいとお願いし、多次元を旅していた。その際に、神から選別として仮面ライダーＷのロストドライバーとジョーカーメモリとスカルメモリと多用の能力を貰っている。性格は明るく、前向きな男だが、とても強さ正義感の持ち主。恋愛に関しては少し鈍い。

能力：ファイナルファンタジー系の魔法や召喚術、鋼の錬金術師の全ての錬成術など。

第1話『次の世界は砂漠地帯！？そして、いきなり戦闘！』

ここは時間の時を走る列車『デンライナー』のターミナル。そのデンライナーから一人の青年が降り立つ。この青年こそこの物語の主人公『如月拓海』である。

拓海
「ありがとうオーナー。とても楽しかったよ」

オーナー
「いえいえ、こちらこそあなたのおかげで色々と助かりましたよ。お礼と言ってはなんですが、この電王ベルトとパス、そしてこの無期限チケットを差し上げます」

そう言ってオーナーは拓海にベルトとパス、そしてチケットを渡した。

拓海
「ありがとうございます。では、俺はこれで。アイツ等にはまたよろしくと言っておいてください」

オーナー
「分かりました。では、また何時かどこかで……」

そうオーナーは言って、デンライナーに乗り込むとデンライナーは発車して行った。拓海は見送った後、ベルトとパスとチケットをボストンバックに入れ、バックを背負う。

拓海

「さてと！次はどんな世界に行こうかーー」

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴッ！！

拓海
「なッ！？」

拓海が言おうとした時、突然地震が起き始めた。

拓海
「ちょ！地震！？しかもデカい！」

そう言っていると拓海の足下に罅が割れ、穴が開き拓海はその中に落ちた。

拓海
「うわぁぁぁぁぁぁッ！！」

そして、地震が収まると、拓海のいた所は何もなかったかのような、穴が塞がった。

◇

拓海
「……う……此処は……？」

落ちてから数分、拓海が気が付くとそこは砂漠地帯だった。

拓海
「なんでこんな砂漠のど真ん中にいるんだ？確か、デンライナーからターミナルに降りた後、次の世界に行こうとした時に地震が起きて……ああ！思い出した！その後、俺は穴に落ちたんだ！」

拓海はあの後起きた出来事を思い出し、そして立ち上がり埃を払い、近くに落ちていたボストンバックを背負い直すと辺りを見渡す。

拓海
「それにしても……此処はどんな世界なんだろ？空に月が３つぐらい見えるって事は、“なのは”の世界かな？でも、こんな砂漠地帯だったかな？」

拓海は前に行ったことのある世界かと思っていたその時。

ヒュウウウウウウウ……。

拓海
「……何だろう……なんか嫌な予感が頭上から感じるような……ｕ」

拓海がそう思いながら上を見た瞬間。

ヒュウウウウウ……ゴチンッ！

拓海
「～～～～！？！？」

その振ってきた物体が脳天に直撃し、拓海は声にも出せない位に痛みにその場に座り込んだ。

???

「……う、うーん…はっ!?ここは…?あ、そっか。さっきの地震で転んだんだ。良かった、怪我はしてないや」

拓海

「こっちは怪我したがーーー!!」

???

「うわぁ!?あ、あの、どうしたんですか?頭にたんこぶ作って…?」

拓海

「お前が上から振ってきたおかげで出来たんだよ……(怒)」

拓海は顔に怒りマークをつけながら落ちてきた同い年くらいの青年に言う。

???

「す、すいません!」

拓海

「まぁいいけど。あ、自己紹介がまだだったな。俺は拓海、如月拓海。お前は?」

ジャン

「僕はジャンと言います。ところで、ここは何処でしょうか?僕、お嬢様を探していた途中で地震にあい、そして転んだ拍子に落ちたんです」

拓海

「それがさっぱり分からないんだ。俺もジャンと似たような感じだし……ｕ」

ジャン
「そうですか……一体何処なんでしょうねここ……」

拓海
「……？なんか聞こえないかジャン？」

拓海は突然立ち上がりジャンにそう言う。

ジャン
「え？何がーー」

？？？
「……キャアアア！」

拓海
「！？上か！」

拓海はそう言って上を見ると、女の子が落ちてきていた。

？？？
「助けてぇ～～～っ！」

ジャン
「桃が！大きな桃が落ちてくるぅ～っ！？」

拓海
「何言ってるんだよお前！？っていうか桃って何！？」

???
「きゃぁ～っ！あ、危ないですの～っ！どいてくださいですの～！……あ！や、やっぱりどいちゃだめですのっ！」

拓海
「どっちだよ（ ○ ；）！？」

???
「受け止めてください～！」

拓海
「分かった！おりゃあ！」

拓海はそう言って、ジャンプして落ちてきた女の子を受け止め着地する。

???
「あ…ありがとうございますですの／／／／（は、はぅ～……か、かっこいいですの／／／／）」

拓海
「どう致しまして、俺は如月拓海、気楽に拓海って呼んでくれ。んで、こっちがさっき知り合ったジャン。君は？」

まろん
「あ！自己紹介が遅れました。私はまろん＝まかろんと申しますですの！ところで拓海さん、一つ聞いてもいいですか？」

まろんはそう言って拓海に聞いてきた。

拓海
「何？」

まろん
「えーとですね…ここ…どこですの？」

拓海
「え？知らないのか？」

まろん
「…はいですの。学園で料理をしていたらいきなりここに落ちてきて…ここ…どこなんですの？」

拓海
「ああ、悪いυ実のところ俺達も分からないんだ。こっちもまろんと似たような感じなんだ」

拓海は頭を掻きながらまろんにそう言う。

まろん
「そ、そうなんですの……チッ。役に立ちませんの（ボソッ）」

ジャン
「え？何か言いました？」

まろん
「いいえ？何も言ってないですの？気のせいじゃありませんの？」

拓海
「まぁとにかく、まろんを学園へと帰る道と、ついでにジャンの言

うそのお嬢様とやらを探さないとね。まろんは学園って事は何か大事な用事がありそうだし」

まろん
「そうですの。私も早く帰らないともうすぐ試験ですの」

拓海
「という訳で、とりあえず三人で行動しよう。その方が安全だしな」

拓海はそう二人に言う。

まろん
「わかりましたの！ひとまず三人でパーティを組みますの！よろしくですの！拓海さん！ジャンさん！」

拓海
「ああ！よろしくまろん！」

ジャン
「はいっ！よ、よろしくお願いしま…」

まろん
（まぁいざという時はこんな貧弱でも肉の壁にはなりますし……それに…）

チラッ

拓海
「ん…？どうした？」

まろん
「い、いいえ！なんでもありませんの～！（うぅ…い、いざという時、拓海さんが守ってくれそうですし…／／／）」
拓海は何故まろんの顔が赤いのか疑問に思いながら、していると突然バチッと何か弾けるような音が聞けてきた。

ジャン
「え！？」

まろん
「何？」

拓海
「これは……？」

拓海は警戒していると突然周りに何処のチンピラのような感じの男達と犬っぽいモンスター達が出てきた。

ジャン
「うひゃぁっ！で、出たぁっ！」

ごろつきA
「おお！？なんだぁ！？変な光の中に落っこちたと思ったら目の前にいきなりうまそーな獲物がいやがったぜ！」

ジャン
「え、獲物！？僕たちのことですか！？」

ジャンは怯えながらチンピラAに言った。

ごろつきB
「決まってんじゃねぇか！痛い目に遭う前に金目の物全部出し……」

バチッ……ズガガガガガガガガガッ！！

ごろつき達&モンスター達
「「ウギャアアアッ（キャイイイインッ）！？」」

ジャン&まろん
「「……え？」」

拓海
「はい終了。なんか前の世界でも似たような事があったよな～υやっぱり呪われてんのかな俺……υ」

拓海は神にもらった錬金術で爆発を起こしチンピラ&モンスター達を吹き飛ばした。

ジャン
「えっと……今のは拓海さんがやったんですか？」

拓海
「まぁな」

まろん
「凄いですの！もしかして拓海さん、魔法が使えますの！」

拓海
「まぁ似たようなものだな」

ごろつきA
「て、てめぇ！！不意打ちかよ！？おかげで俺以外全滅じゃねぇか！？」

拓海
「良かったな」

拓海はどうでも良さそうに言う。

ごろつきA
「クソッ！舐めやがって！こうなったらコイツを使ってやる！」

そう言ってごろつきAは懐からUSBメモリのような物を取り出し、そのメモリのボタンを押す。

《マグマ！》

拓海
「ッ！？お前、それを何処で！？」

ごろつきA
「へっへっへ！ある奴から貰ったんだよ！うらぁ！！」

そう言ってごろつきAは自分の腕にあるコネクターにメモリを差し込むと、男の体が変化し、マグマのような体をした怪物『マグマ・ドーパント』になった。

ジャン
「な、何ですかアレ！？」

まろん
「と、突然腕に変なもの差したかと思えばいきなり怪物になったですの！？」

マグマ・ドーパント
『クハハハッ！この姿になった俺は今や無敵だ。オラァッ！』

そう言ってマグマ・ドーパントは三人に向かって火の玉を放ってきた。

ドカァンッ！！

ジャン
「うわぁ！？」

まろん
「キャアッ！」

拓海
「クッ……！」

三人はかろうじて避けたが、まろんは腕に軽い火傷をする。

拓海
「大丈夫かまろん！」

まろん
「へ、平気ですの……軽い火傷ですし」

マグマ・ドーパント
『ギャハハハッ！命が欲しければさっさと金目の物を渡すんだな！』
マグマ・ドーパントがそう言っていると拓海は立ち上がり、マグマ・ドーパントを見る。その顔は怒りに満ちていた。

拓海
「……ジャン、まろんを頼む。アイツは俺に任せろ」

ジャン
「で、でも！いくら魔法みたいな力が拓海さんでも危険ですよ！！」

拓海
「大丈夫。アレの対処法は、知り尽くしているから……」
そう言って拓海は懐からロストドライバーを取り出し、それを腰に巻き付けた後、Ｊと書かれたメモリを取り出し、ボタンを押す。

《ジョーカー！》
そして、それをロストドライバーに差し込み、そして構える。

拓海
「変身！」

『ジョーカー！』
すると、拓海の体が変わりそこにはジョーカーメモリで変身した仮面の戦士『仮面ライダージョーカー』へと変わった。

ジャン
「ええ！？」

まろん
「た、拓海さん！？」

マグマ・ドーパント
『て、てめぇ！？何者だ！？』

拓海
「俺はジョーカー。仮面ライダージョーカー……さぁ、お前の罪を数えろ！」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0992z/

クイーンズゲイト スパイナルカオス～多次元を旅する戦士の戦い～

2011年12月5日23時52分発行